

令和7年度 江戸川区立篠崎中学校学校関係者評価報告書(学校経営計画・学校関係者評価シート) 1

資料2

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> よく学び、深く考える生徒 思いやりと規範意識のある生徒 すすんで体を鍛える生徒 社会に貢献する生徒 	目指す生徒像 目指す教師像	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に考え、行動できる生徒 生徒のやる気に火を付けられる教師
前年度までの本校の現状	成果 ① 篠崎中学校「働き方改革推進計画」に基づいた働き方改革の進捗は、かならず進捗している。② 学びのユニバーサルデザインを取り入れた授業改善については増補版が完成させた。③ OSの開設については準備が整ってきている。④ 働き方改革については、ゆっくりにあるが着実に成果が出てきている。⑤ 学校財産については、かなりの成果が上がっている。⑥ 昨年度開設したチャレンジクラスについては、概ね良好な状況で運営ができています。	課題	① 不登校については、全く成果が表れていない。② 自己肯定感を高める取組については今後大きな仕掛けが必要である。③ 教員の特別支援学校での出前授業については、再度丁寧な推進する必要がある。④ 学力向上については焦点を絞って教員への意識付けが必要である。⑤ 国際交流については、交流先を見付けることが課題になっている。⑥ フィットネスエリアの活用については大きな課題である。

重点	取組項目評価の視点	具体的な取組	自己(学校)評価			「中間」学校関係者評価(A~D)		自己(学校)評価(A~D)		「年度末」学校関係者評価(A~D)		次年度に向けて			
			数値目標(赤字が変更事項)		達成度	10月現状・追加取組(赤字が追加取組)		評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	校長所見(案)	継続・廃止
			10月	2月	10月	2月									
学力向上	(1) 篠崎中学校「学力向上推進計画」に基づいた学力向上	① EDOスク、EDO学舎、EDO塾など、家庭と連携した学習習慣の定着 ② 反転学習を導入した課題解決型学習に関わる授業研究を計画的に実施	学力調査(国語・数学・英語の平均正答率)が、部の平均値以上 R6 国語: 取54.0% 国6: 58.0% 数学: 取55.0% 国6: 58.5% 英語: 取51.0% 国6: 52.0% 国6: 45.0%	× △ ○ ○	本年度から定期考査前コースと通年コースで実施、EDO学舎も中学生で溢れている。(計画が未確定) 全教員が実施し、事例集も完成させたことができた。	B	・ 部平均と比較すると学習効果は感じているが、これからの学びについて、生徒や保護者に何をも説明することが大切 ・ 反転学習の導入や実践を通して、一貫授業のあり方をしっかりと見守ることが大切 ・ 教員のスキルが変わってきているので、各種サポート資料も検討できるようにしていきたい ・ 目標は定めていないが、学力向上、課題をコンクールでは一定の成果を出している ・ 先生方に頑張っていただきたい	B	補習教室等の参加率は出ているが、学力向上になっているかは不明。	B	・ 学力調査の結果は伸びているが、反転学習の実践例と充実させると同時に生徒の理解度、認知特性に応じた工夫が必要になると感じます。 ・ 教員の指導力向上を図りたいと考えています。 ・ 課題解決策、新しい学習に取り組んでください。 ・ 家庭学習の力を活用して教員と話し合ったり、話し合ったり大切 ・ 取り組みを通じて少しずつ効果が出ていると思う ・ 反転学習は期待しているので、定期的な効果測定を踏まえて	新たな学力向上を推進する。学習習慣については継続させるが事業として廃止	廃止		
	(2) 学習指導要領に対応した教員の指導力向上	① 関わる学習コンクールへの出品を軸にした、読書資料の充実	図書館を使った関わる学習コンクール。区内委員各10名以上 R6 1年男子: 34.50 女子: 41.1 2年男子: 40.8 女子: 46.7 3年男子: 49.0 女子: 51.4 全体264.2の平均値は0.8の平均値以上	○ ○ △ △	全学年531名が応募し、区内銀賞7名が入賞	B	・ フィットネスエリアの更なる有効活用 ・ 保健体育科としての具体的な実践例と成果を知りたい ・ 活動が軌道にのって来たが、まだまだ拡大拡充を図る必要がある	B	単元ごとに今以上の工夫改善を図っていききたい。	B	・ 書籍を使った学習。あとは多くの生徒が活用して欲しい ・ 体力向上で持久力のある生徒、フィットネスエリアの委員の活用 ・ 事前の準備と目的を更に伝える仕組みがある良いか、聞いてみたい ・ 現在の規模よりもスペースが拡大できれば個人利用を求めるところに対応したいと思う ・ フィットネスエリアの活用がより進みます	読書活動については教育活動全体を通して実施、反転は続けるが事業として廃止 教育活動全体を軸とし、作品の質の向上を図る。	廃止		
体力向上	(3) 豊かなスポーツライフの実現に向けた取組の充実	① 本校の課題を克服した保健体育科の授業における補助運動の充実 ② 「フィットネスエリア」を活用した個に応じたトレーニングの各部活動等での活用推進	全学年が部の平均以上 R6 1年男子: 34.50 女子: 41.1 2年男子: 40.8 女子: 46.7 3年男子: 49.0 女子: 51.4 全体264.2の平均値は0.8の平均値以上	○ ○ △ △	種目に応じて体育で実施している。	B	・ フィットネスエリアの更なる有効活用 ・ 保健体育科としての具体的な実践例と成果を知りたい ・ 活動が軌道にのって来たが、まだまだ拡大拡充を図る必要がある	B	単元ごとに今以上の工夫改善を図っていききたい。	B	・ 書籍を使った学習。あとは多くの生徒が活用して欲しい ・ 体力向上で持久力のある生徒、フィットネスエリアの委員の活用 ・ 事前の準備と目的を更に伝える仕組みがある良いか、聞いてみたい ・ 現在の規模よりもスペースが拡大できれば個人利用を求めるところに対応したいと思う ・ フィットネスエリアの活用がより進みます	使用を深めて、更なる向上を継続	継続		
	(4) 自己と他者を大切に、多様性を認め合える人権尊重意識の涵養	① 道徳地区公開講座を充実しての学校と家庭の連携を図った道徳教育の充実 ② 職員の人権尊重教育に係る研修の充実(フィールドワーク等)	いじめの認知件数 4件 重大事案 2件	○ ○ ○ ○	本年度の保護者等を受えた授業は評判が良かった。 フィールドワークでなく、WISCの実践研修を行い、2月に山谷理の研修を予定	A	・ 授業が良くできる印象 ・ 生徒会がもっと主体的に相互理解を深められるイベントなど企画できないか ・ 生徒一人ひとりと向き合った取組を進めていく	A	本年度の3年生の取組を発展させたい。	A	・ 様々な取り組みにチャレンジしているところが素晴らしい ・ 生徒にも指導の効果が見られるように感じます ・ 学校で抱える様々なトラブルや問題意識を自分自身で考える機会をつくる。特に解決策を考える体系的な学習も必要 ・ SNS対策として、情報モラル教育情報リテラシー教育を計画的に行う ・ 現代の社会に必要なスキル、短時間で中学校の時より身に付けたいスキルを身につけてほしい ・ 進人ちゃん表彰の推薦数が少し増加しており、様々な分野での進人を今後とも見えていくことを期待しています ・ 生徒からのアンケートにあった「夏期のジョージ賞」について可能であれば生徒に意見、検討を求めると議論を更に深められるのではないかと感じました。 ・ 生徒・保護者・教員に対してのそれぞれの学びの学びの場がある事業として継続	保護者等の参加を今まで以上に促進して継続 フィールドワークを重視し継続	継続		
健全育成	(5) 生徒理解に基づいた支援の充実	① 生徒会予算を投入し、より主体的な生徒会活動の活性化 ② 「いいとこ見つけ週間」を設定しての生徒同士の称賛を促す機会を設定した自己肯定感の涵養	学年別満足度調査が全体の10%以上 R6 1年7% 2年17% 3年10%	△ ○ △ ○	フィールドワークでなく、WISCの実践研修を行い、2月に山谷理の研修を予定 学年別満足度調査時、プール、バス、女子受取受取準備機を購入	A	・ 授業が良くできる印象 ・ 生徒会がもっと主体的に相互理解を深められるイベントなど企画できないか ・ 生徒一人ひとりと向き合った取組を進めていく	A	3学期に山谷視察が本当にできればA、是非とも実施したい。	A	・ 様々な取り組みにチャレンジしているところが素晴らしい ・ 生徒にも指導の効果が見られるように感じます ・ 学校で抱える様々なトラブルや問題意識を自分自身で考える機会をつくる。特に解決策を考える体系的な学習も必要 ・ SNS対策として、情報モラル教育情報リテラシー教育を計画的に行う ・ 現代の社会に必要なスキル、短時間で中学校の時より身に付けたいスキルを身につけてほしい ・ 進人ちゃん表彰の推薦数が少し増加しており、様々な分野での進人を今後とも見えていくことを期待しています ・ 生徒からのアンケートにあった「夏期のジョージ賞」について可能であれば生徒に意見、検討を求めると議論を更に深められるのではないかと感じました。 ・ 生徒・保護者・教員に対してのそれぞれの学びの学びの場がある事業として継続	PTAとの連携を強化し、充実させる	継続		
	(6) 「未来を担う子供たちの自立に向けて」に準じた不登校支援の充実	① ほつとルーム及びチャレンジクラスを活用した支援の充実 ② 不登校・不登校傾向の生徒の部活動や地域活動への参加を促進	不登校もしくは長期欠席者のうち、外部専門機関につながっていない生徒の人数 R6-2人	△ ○ △ ○	1月現在全年度で14名の生徒が活用している。	A	・ 生徒一人ひとりを大切にする姿勢が取組が見られる ・ ユニバーサルデザインの実践研究を進めてください	A	初めての通常学級と宿泊行事を共にするなど、交流を促進することができた。	A	・ ユニバーサルデザイン等の研究は進んでいると思うが、実践は今一歩と感じます ・ 多様性の理解、尊重の推進が見られる ・ 先生方のみなさん、生徒一人一人にも交流を促していき、様々な思いを受け取る気持ちで備えてきてほしいと思います。	本校の中核をなす取組として位置づけ継続	継続		
共生社会	(7) 共生社会の実現に向けた特別支援教育の推進	① 日常的な交流及び共同学習の機会を設定した、交流及び共同学習の更なる充実 ② 全教員による年間1回以上の特別支援学校における出前授業の実施 ③ 「学びのユニバーサルデザイン」を取り入れた授業の工夫改善	全通年学級担任教員による出前授業の実施 全教員でユニバーサルデザインを活用した授業等の工夫事例集を増補 R6 ・ 増補版を完成 ・ 出前授業全体の約30%のみ	○ ○ ○ △ ○ ×	満足、宿泊で交流、他教科でも実施している。	A	・ 生徒一人ひとりを大切にする姿勢が取組が見られる ・ ユニバーサルデザインの実践研究を進めてください	A	初めて通常学級と宿泊行事を共にするなど、交流を促進することができた。	A	・ ユニバーサルデザイン等の研究は進んでいると思うが、実践は今一歩と感じます ・ 多様性の理解、尊重の推進が見られる ・ 先生方のみなさん、生徒一人一人にも交流を促していき、様々な思いを受け取る気持ちで備えてきてほしいと思います。	個別に応じて継続・拡充をしていく。	継続		
	(8) 「コミュニティ・スクール運営マニュアル」に基づいたCSモデル校の運営の推進	① 地域の方々を部活動に招いた「篠中サクル」など、地域学校協働本部を活性化させた多様な活動の推進 ② 1人1ボランティア運動の推進(地域祭り、夏ボラ等)	中サクル役員部活動3部活動 R6 年間1回以上、生徒の半数以上が地域のボランティアに参加 R6 全体24%	△ ○ ○ ○	外部指導員5名。連携団体の変更	A	・ 生徒一人ひとりを大切にする姿勢が取組が見られる ・ ユニバーサルデザインの実践研究を進めてください	A	部活動の地域への移行を確かな中でできる範囲で実施していきたい。	A	・ 地域の方々と共に学ぶ環境を確保していき、継続していき。	継続			
開かれた学校	(9) 学校情報の積極的な配信	① 「篠中ちゃんねる」(動画配信)の充実	年間10本以上の動画の配信 R6-14	△ △	月に1回程度の更新は行っているが、それにとどまっているのが現状	A	・ 篠中チャンネルをバズらせる戦略が必要 ・ 学校運営協議会の役割を生徒や保護者によく理解してもらうための具体的な取組を行うことが大切 ・ 成果が出てきていると思います	A	今後とも、ボランティアについては推奨していきたい。	A	・ よくやっているものもあるが、まだまだ課題があるように感じます ・ 様々な部活動や委員会活動の作成を月数回担当させて配信させるのはどうか ・ 生徒や保護者へ届けたい内容を伝えたい場合は、写真も添付する。行事で紹介するなど ・ 着実に地域との共生が進んでいる ・ ボランティア手帳や連絡帳を活用したサポート作りなどで、活動に参加した生徒が一年後まで経っても成果や気持ちを受け取るツールがあると効果的だと思いました。 ・ 様々な活動の場にも活用しています。篠中チャンネルをもっと活用していきたいです。 ・ 部活動地域への移行は顧問の先生とのコミュニケーションが大切だと思います。	地域の方々と共に学ぶ環境を確保していき、継続していき。	継続		
	(10) 教員の生徒と向き合う時間の確保	① 篠崎中学校「働き方改革推進計画」に基づいた働き方改革の進捗	総労働時間、月45時間以内年間6か月以上が全体の7割 R6 R6-概ね約60%程度以内	○ ○	働き方改革の進捗は、かならず進捗している。	A	・ 教員の働き方課題 ・ 教員の仕事は取りにくい。しかし教員一人ひとりの人生を豊かにする必要がある ・ 教員にもそのことを自覚し、メリハリのある教員生活を送ってほしい ・ これこそ新しい発想で今まで誰も手付けなかったことです ・ 新採 家庭課頑張れ！	A	推進計画の見直しを図りたいが、今年度は図ることができなかった。	A	・ (11)はよくやっていると思います。(10)については管理職と連携して取り組んでいきたい ・ 働き方改革は教員の幸福とつながると感じています。特にインフラ整備に期待したい ・ 学習の活用を促している生徒がどのくらいいるか気になる	推進計画の見直しを必ず行う。	継続		
その他	(11) より良い学校設備の整備・充実	① 学校のデスクスペースを活用した、教育スペースの確保・有効活用	実習室-多目的室 印刷室-移動プール直下倉庫整理	○ ○	R7は、資料室及び図書準備室を整理できた。	A	・ 働き方改革の進捗は、かならず進捗している。	A	本年度まで今年度分はしっかりとやり遂げた。	A	・ 働き方改革の進捗は、かならず進捗している。	本年度、一定程度進捗したが、デスクスペースは再確保	継続		
	(12) 食育の推進	① 家庭科と栄養士の連携を図った生徒の考えた「慶秀献立」の充実	本年度も実施ができた。	○ ○	本年度も実施ができた。	A	・ 働き方改革の進捗は、かならず進捗している。	A	本年度も継続できたことで、まずは良いと思う。	A	・ 働き方改革の進捗は、かならず進捗している。	何としても継続していく。	継続		

全体共通(通常学級)

重点	取組項目 評価の視点	具体的な取組	自己(学校)評価(A~D)			「中間」学校関係者評価(A~D)		「年度末」 自己(学校)評価(A~D)		「年度末」 学校関係者評価(A~D)		次年度に向けて			
			数値目標 (赤字が変更事項)	達成度		10月現状・追加取組 (赤字が追加取組)	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	校長所見(案)	継続・ 廃止	
				10月	2月										評価
特別支援学級(8組)	学力向上	(1) 篠崎中学校「学力向上推進計画」に基づいた学力向上	①学年の枠を超えた3クラス2~3展開の習熟度別学習の実施		○	○	来年度、英語に取り組む意欲に期待しています。生徒の習熟度に合わせた指導と生徒同士の助け合いによる理解を促す指導の両立が難しいと思います。学習に関しては取組みが進んでいると思います。	A	出来ている。	A	来年度、英語に取り組む意欲に期待しています。生徒の習熟度に合わせた指導と生徒同士の助け合いによる理解を促す指導の両立が難しいと思います。学習に関しては取組みが進んでいると思います。	習熟度別学習は継続するが、事業としては廃止。新たな学力向上策を考える。	廃止		
		(2) 学習指導要領に対応した教員の指導力向上	②各教科等の目的や自立活動、作業学習等の目標を意識した適正な教育課程の編成	○教育課程に基づいた関連資料(各教科の年間計画)の見直し	○	○	関連資料の見直しを図り、指導の重点化が図れた。	A	出来ている。	A	出来ている。	難易度等について程度高くなったため事業として廃止。今後は探究的な学習を重視する。	廃止		
	向上力	(3) 豊かなスポーツライフの実現に向けた取組の充実	①朝のトレーニング週間を設定しての体力の向上	○1回は概ね1週間、学期に1回程度	△	△	生徒及び教員の負担増になっている。	B	以前、朝校庭を周囲を距離に換算し、表にして目標をもたせるように記録していた。生徒が伸びない。他の方法で体力の向上を	B	回数、実施方法は今後に向け検討していく。	B	朝とはいかない方法を考える又は別の方法を考える。生徒のモチベーション向上が課題だと思います。	廃止	
	育健全	(5) 生徒理解に基づいた支援の充実	①野菜や雑巾販売、喫茶店などPTAと連携した作業学習の充実	○PTAと連携した作業学習を年間3回以上実施	△	△	土曜授業の回数変更に伴い、3回実施できていない。	B	販売時の金銭の処理が面倒だが、キャリアのためにやってみよう。	B	篠フェスの一回のみの実施となってしまう。今後の計画にもない。	B	ボランティア参加とか色々な機会で開催してほしい。販売や出店作業は仕事につながる機会なので期待しています。大変だと思いますが、継続していただきたいです。	回数を増やすことを視野に入れ継続	継続
		(7) 共生社会の実現に向けた特別支援教育の推進	①日常的な交流及び共同学習の機会を設定した、交流及び共同学習の更なる充実	○通常学級生徒の交流給食の受け入れ	×	×	交流及び共同学習は進んでいるが、日常的な交流は不十分である。	B	これからのインクルージョンには必要なことです。先生方も頑張ってください。	A	3学期に3年生と交流給食を実施した。	B	中間評価のコメントと同じです。どうしても通年級になじまない生徒には長期的な支援が必要だと感じました。	個に応じてそれぞれの交流の場を増やしていく。	継続
	共生社会	(7) 共生社会の実現に向けた特別支援教育の推進	②全ての通常学級担当教員による年間1回以上の出前授業の受け入れ体制の構築	○出前授業の年間実施計画の作成	△	△	出前授業の実施率は上がっているが、100%にはなっていない。併せて計画も作るのが難しい。	B		B	教育課程の編成上、計画的に進めることが難しかった。		次年度は全教員の授業を実施することを強化し、実施	継続	

重点	取組項目 評価の視点	具体的な取組	自己(学校)評価(A~D)			「中間」学校関係者評価(A~D)		「年度末」 自己(学校)評価(A~D)		「年度末」 学校関係者評価(A~D)		次年度に向けて				
			数値目標 (赤字が変更事項)	達成度		10月現状・追加取組 (赤字が追加取組)	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	校長所見(案)	継続・ 廃止		
				10月	2月										評価	コメント
チャレンジクラス(9組)	学力向上	(1) チャレンジクラス運営マニュアルに基づいた学力向上	①学年の枠を超えた3クラス6展開の習熟度別自由進度学習の研究		○	○	習熟なく、実施は出来ているが、学力の数値目標を掲げるのが困難。	A	学習環境が良い。	A	実施できている。		人数が増えれば維持できるような体制の構築	継続		
			②音楽科、美術科、技術科、家庭科における、週毎に弾力性をもたせた指導の実施	○週毎に弾力性をもたせた指導の実施	○	○	概ね出来ており、形が出来上がってきた。	A	学習意欲目標が必要か ・学校全体がチャレンジクラスの生徒をしっかりと受け止めていると思われ。生徒も履中に来ることを楽しんでいるほうである。	A	実施できている。	A	評価は特別なので研究の余地はあるが出席がよければ効果も上がっていると思います。中間評価で一度停んだ際には授業も遅く安定した様子に感じられました。メンバーの意欲や学習進度のずれなど、通常学級と異なる工夫が必要となつたと多々あると思いますが、継続していただきたいです。	指導体制の維持、継続	継続	
	向上力	(2) 学習指導要領に対応した教員の指導力向上	③定期考査を廃止し、評定によらない評価の実施。個々の学習進度に応じた実力テストを実施	○定期考査を廃止し、評定によらない評価の実施。個々の学習進度に応じた実力テストを実施	△	△	実力テストは出来ておらず、個別に把握を行っている。	B	・はじまればばかりで課題、改善点は多々あると思う。けれど、外部からは見えないことが多くコメントできません。なによりで見学したときは、いい雰囲気であった学習態度でした。 ・努力されている事に感謝します	B	評定によらない評価は実施しているが、実力テストはできていない。	B	調べる学習や発表会の場を設ける授業もあったが、改善の余地がある。	評定は行わないが、学力踏査の実施を推奨する。	継続	
			(5) 生徒理解に基づいた支援の充実	①理科・社会科における、自己の課題の解決に向けた調べ学習と定期的な発表会をの実施	○調べ学習と定期的な発表会をの実施	○	○	課題解決型学習に図れるようになってきた。	B		B	調べ学習や発表会の場を設ける授業もあったが、改善の余地がある。	工夫改善を行い継続	継続		
	健全育成	(6) 不登校支援の充実	①豊かなスポーツライフの実現に向けた取組の充実	①専門家等と連携した自律神経を整える運動、通称名「リラクスの実施	○専門家等と連携した自律神経を整える運動、通称名「リラクスの実施	△	△	専門家等の連携は図れていない。	B		B	専門家との連携は図れていない。	B	どのくらい評価が出ているか不明 ・8組と同様に運動への抵抗感の軽減が課題だと思います	専門家等と交すに学校としてのノウハウ構築	継続
				②標準服や体育着の着用を求めないなど、生徒の実態に応じた「きままり」の抜本的な見直し	○標準服や体育着の着用を求めないなど、生徒の実態に応じた「きままり」の抜本的な見直し	○	○	「きままり」については個別の対応になってきた。	B		B	生徒の実態に応じて「きままり」を随時見直すことができた。	A	きめの細かい個別の対応を行いながら対応していく。	継続	
				③日々の記録を続けることができる連絡帳「マイライフ」を活用した支援	○「マイライフ」から「L-Gate(電子版)」に変更	○	○	マイライフからL-Gate(電子版)に変更	A		A	「マイライフ」から「L-Gate」に変わり、毎日生徒とやり取りした。	A	L-gateの見直しを行い継続	継続	
④登校後の朝の時間を活用し、ソーシャルスキルトレーニング(SST)の実施				○登校後の朝の時間を活用し、ソーシャルスキルトレーニング(SST)の実施	○	○	概ね出来ており、形が出来上がってきた。	A	・9割以上の生徒が標準服や体育着で登校しているが、学校や学年行事の際はTPOをわきまえて着用している。 ・修学旅行は中学校生活の集大成、9組の生徒だけで修学旅行をできるのか?参加生徒が増えるのではないだろうか?参加生徒が増えるのではないだろうか? ・不登校対応が改善されている。 ・義務教育後の進路については、生徒や保護者も不安を感じていると思われる。キャリア教育の視点から生徒や保護者と一緒に考え、教育活動を進めてほしい。 ・不登校が一人でも少なくなることを期待したい	A	毎日実施することができた。	A	オンライン含む90%以上の登校率である。オンラインの仕方は改善の余地がある。	A	朝の貴重な時間として位置付け実施	継続
⑤従来の教室環境を一掃し、生徒がより主体的に学べる教室環境の整備・充実				○従来の教室環境を一掃し、生徒がより主体的に学べる教室環境の整備・充実	○	○	人数増に伴い工夫が必要になる。	B		B	生徒数が多い時にはかなり手狭になっているので、改善の余地がある。	A	生徒数が多い時にはかなり手狭になっているので、改善の余地がある。	A	人数が増えた場合を想定しながら、再構築していく。	継続
開かれた学校	(8) 地域コミュニティの拠点としての取組の充実	①地域と連携した「ウェルカムフラワー運動」を委員会として実施した帰属意識の涵養を図る。	○本校部活動、もしくは、地域のボランティアサークルに参加する生徒の割合が2割以上 R6=25%	○	○	部活動やボランティアでの活躍が目立ってきた。	A		A	半数程度は部活動に入り活動することができた。	A	・ボランティア参加人数が多いと感じる。 ・これまでの学校の取り組みを通して、地域によく認知されている。地域にも好影響を与えている。	・9組の生徒が部活に入るだけでなく素晴らしい生徒の主体性と達成感を醸成する取組みだと思います。	今以上に華やかな場所に見えるよう働きかける。	継続	
			(7) 共生社会の実現に向けた特別支援教育の推進	①特別支援学級との交流給食の実施	○1回1週間程度を目途に、年間3回実施	○	○	概ね出来ており、形が出来上がってきた。	A		A	毎学期、交流給食の実施が出来た。	A	形式的にならずに実のあるものにしてほしい。継続していただきたいです。	頻度を上げての実施	継続